

新庁舎・(仮称) 新福社会館建設 事業市民説明会 (4回目)	日時	令和5年11月3日(金) 19:00~21:10	場所	公民館緑分館 学習室ABC
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	28人(うち市議会議員6人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A)</p> <p>現設計案には反対である。見直し案を検討して欲しい。建設費は23億円、LCC(ライフサイクルコスト)は80~90億円のコストダウンとなる。構造もI字型で合理的。3,000㎡の広場を確保できる。公共施設マネジメント基金も26市中26位で、空調の修理などにも不安がある。</p> <p>(庁舎建設等担当課長)</p> <p>→見直し案は庁舎等建設に関する協議会の中でも出ており、それに対して「見直し案に係る庁舎建設等担当の見解(第8回庁舎等建設に関する協議会資料)」で「見直し案は、前提条件の抜本的な見直しを提起した1つの提案であり、市の事業として、見直し案を検討するには、条件の検討からやり直す必要があり、何年も立ち戻ることになる。」との趣旨で回答している。</p> <p>設計者選定の手続きを受けていない、見直し案を検討するというのは、公平性、透明性に欠ける。さらに、新庁舎建設調査において、I型案は検討済みで、検討の結果、耐震と免震をL型に配置する方針とし、その条件でプロポーザルを行っている。</p> <p>(佐藤総合計画)</p> <p>→耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式で、耐震強度については、福社会館は通常、建築基準法の1.25倍で良いところを、1.5倍の強度としており、庁舎と同じ。ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には、安全を確保し、外に避難してもらうのが重要。巨大地震が来たときには、1か月ほど余震がある。市民が避難生活をしている間に、福社会館等の公共施設は通常の市民サービスをストップするのが一般的。</p> <p>一方、庁舎は、災害対策本部があり、機能をストップできないので、免震構造としている事例が多い。</p> <p>(庁舎建設等担当部長)</p> <p>LCCについての市の試算はライフサイクルコスト算出ソフトに基づき算出したもので、見直し案は、建設費をもとに一定割合を掛けて算出したものと聞いている。算出方法の違いによって、差が出ている。</p> <p>公共施設マネジメント基金は26位だが、これは、R4年から積み立てはじめたのが理由となっている。一方、何にでも使うことができる、財政調整基金の活用も見込まれることから、公共施設マネジメント基金が無いからと言って空調が修理できないわけではない。</p> <p>(市民B)</p>				

J R の高架下をなぜ利用しないか。J R は小金井市に高架下を利用させるべき。

市長の案に賛成である。見直し案について、市民案と言っているが、単なる私案にすぎず。市内の公共施設はぼろぼろであり、優先順位を決めて、できることから一つ一つ解決して欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→J R 高架下は、J R が事業展開する用地である。工事中は一部分を借りることになっているが、その後については未定であり、引き続き協議を行っていく。

(市長)

→図書館をはじめ、市内の公共施設について多くの要望があるのは理解している。その中でも庁舎が優先だと考えて進めて行く。

(市民C)

庁舎のバリアフリーについて教えて欲しい。目の見えない方、耳の聞こえない方、L G B T 含めてバリアフリーが十分か。

(庁舎建設等担当課長)

→都のユニバーサルデザイン導入ガイドラインに沿って、様々な視点に立って多くの人々が利用しやすい施設となるよう設計している。また、バリアフリー法や福祉のまちづくり条例に従った設計としている。さらに、基本設計時には、各障がい者団体や子育て支援団体、高齢者団体にヒアリングをして進めてきた。

(福祉会館建設等担当課長)

→新福祉会館については。出入口にシグナルエイドを持つ人に対する音声案内を設けている。多目的トイレにはオストメイト設備を設置。

(庁舎建設等担当課長)

→実施設計再開にあたり、都の福祉のまちづくり条例改定に従って、車いす専用のトイレなどを検討する予定である。

(市民D)

R 3 年 3 月の浸水問題に係る決議によると、実施設計中に東京都はハザードマップを改定したが、小金井市は対応しておらず、庁舎建設担当と防災の担当で伝達不足があったほか、床上浸水の危険性を検証せずに基本設計を終えて、実施設計を発注してしまった問題が重なった。また、設計者からハザードマップ改定について指摘した形跡がなく。市から業者に知らせなかったために 1,800 万円追加でかかっている。事情を知らずに進めたのであれば優良な企業と言えない。現設計は、建物に浸水しないが、敷地内は水没したままで、防災施設として成立するのか。敷地が浸水する今の設計は、避難時に問題が生じる。

(庁舎建設等担当課長)

→当時の最新の東京都公共物建設基本指針に従い、改定前のハザードマップでプロポーザル・設計を行っている。自治体はこういった情報が入ってくるが、法律改正ではないので設計事務所には情報は直接入ってこない。

小金井市の下水は、都の下水基準に従っていたので、建設予定地に浸水したままではなく、すぐに排水されるだろうと地域安全課とも確認を取っていた。防災マップ改訂以降は、地域安全課とも協議して、駐車場の一部を自衛隊などの支援車が利用できるよう、駐車場は盛り土をして上げている。庁舎については浸水対策として 1 階床の高さを上げるようにした。防災施設としての機能と市施設という財産を守ることを考えた対応を取った。

(庁舎建設等担当部長)

→一部敷地内で浸水するが、敷地全体を上げてしまうと、下水で処理しきれなかった雨などが、敷地外に全て流出してしまう。敷地内に一定の水を貯留するので周辺への水の流出を抑える効果があり、庁舎の浸水対策は、現設計で十分だと考えている。

(市長)

→今回は、最大降雨量を超えて下水処理が追い付かず敷地内に雨水が溜まる浸水の話である。それだけの降雨量がある時は、降雨情報は事前に分かるようになっているので、事前に対応を取ることができる。浸水対策としては十分だと考えている。

(佐藤総合計画)

→東京都から設計事務所にハザードマップ改定の連絡はない。小金井市からは排水能力を上げてという要望があったが、地盤レベルを上げる対策まで必要との情報はなかった。

未曾有の雨が降っている時は天気予報でも事前に分かるので、福祉会館が通常どおりサービスを行っているとは考えられず、当日の避難の問題は無いと思う。防災対応を考慮し、浸水対策を行った。

(市民E)

蛇の目ミシンの跡地は過去 78 年間浸水したことはない。敷地内の排水口を大きく設計すればよい。

市の職員の自動車と自転車は敷地内に停めるか。大災害時には自衛隊の車両でいっぱいになる。

(市長)

→職員の通勤の自動車は停めない。自転車は停める。

(市民F)

設計案は、市長案ではなく、市民と行政が合意した案であり、現設計を基に早く進めてほしい。見直し案の資料を鵜呑みにしている方がいるので質問するが、見直し案は確認申請が2か月で可能。R6年7月にプロポーザルを行った後、基本・実施設計を16か月でできるというが、こんなに短期間でできるわけが無いと思うが可能なのか。

(庁舎建設等担当課長)

→行政というのは、いろいろな人の意見を聞きながら進めなくてはいけない。様々な意見を取捨選択ながら判断していく。行政が、1つの意見を突然、採用するという事はない。今、見直し案を検討する場合は、基本計画から立ち返る手続きをすることになる。

(庁舎建設等担当部長)

→確認申請は2か月でも可能。小金井市には市民参加条例があり、市民の意見を聞きながら1～2年かけて審議し、パブリックコメントにかけるのが通例。民間企業であれば16か月でも可能かもしれないが、小金井市では不可能。

(市民G)

子どもが通う公立の学校がぼろぼろなので、市庁舎を早く建てて、他の事業も進めて欲しい。反対意見が多くて驚いたが、周囲の友人はみな建設に賛成しており、反対意見は聞いたことがない。

(市民H)

福祉会館と庁舎で耐震強度の違いはないという話だが、大地震が起きた場合に、福祉会館にたまたまいた人は強く揺れて、市庁舎にいた人はゆっくり揺れて、平等ではないと感じた。

(市民I)

早く庁舎を建設して欲しい。

福祉会館において、福祉関係を2階、子ども関係を3階としている意図は何か。JR高架下は、自転車をおりて歩かなければいけないところがあるのでスムーズに行き来できるようにして欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→福祉共同作業所の関係者に意見を聞いたところ、近年、障がい者施設で事件が起きており、部外者が入りやすい1階は避けたいという要望があり、2階にしている。子ども家庭支援センターは保健センターとの連携や、庁舎3階に子ども関係の課があるので3階に計画している。福祉会館はエレベーターが2基あるの

で、ベビーカーの方もエレベーターで上っていただくよう考えている。

(市民J)

令和5年6月の再開予算修正可決の説明で、「※検証を除く予算は全会一致で可決」と書いてあることについて説明をしてほしい。

(市長)

→令和5年6月の再開予算について、議員提案による修正予算案が可決されたと書いている。これは議案の採決をとる時に、まず修正提案について可決され、その後に、原案部分について採決をとる。その原案部分については全会一致だった。

(市民K)

3年前に基本設計説明会があった時におかしいと感じ、見直し案(市民案)を作成した。その設計の意図は。

- ・84億円が高いと感じた。
- ・地下駐車場を無くせないか。
- ・福祉会館を免震化したい。
- ・16か月で建設可能。

と考えたものである。

5 閉会

— 以上で、閉会 —